留学報告書
～環境を味方にして～

ノースカロライナ大学ウィルミントン校
国際文化学部（中期）

私は 2024 年の 8 月から 12 月までアメリカの東海岸ノースカロライナに位置するノースカロライナ大学ウィルミントン校に留学していました。この 4 か月間は、私にとって人生の大きな転機となる貴重な経験となりました。本報告書では、留学を目指した理由、留学生活での出来事、そして学びについてまとめたいと思います。

はじめに、私が留学を目指した理由について簡単に説明します。私の住む日本では異文化と接する機会が増えてきてはいるものの、地理的、歴史的な背景から、日常生活の中で異なる文化や価値観に触れる機会は限られていると思います。そのような中で、今とはかけ離れた環境に身を置き、様々な文化背景を持った人たちと関わり、様々な視点や考え方に五感を感じて体験することで物事の考え方を広げ、自分の価値観や考え方を再考したいと思いました。他の派遣大学先とは違い、ノースカロライナ大学に行くのが私一人だったため不安もありましたが、留学を終えた今、結果的に「一人でよかった」と感じるほど、満足のいく経験を得られました。

私が留学したウィルミントンは、比較的温暖で湿気が少なく、学期を通して過ごしやすい地域でした。自然環境が豊かで、ビーチや自然公園など、魅力的な場所が多くありました。また、地域の人々は非常に温かく親しみやすい方が多く、学期を通し様々な温かい人たちと出会うことができました。この留学で最もお世話になったのは、現地に住むクリスチャンのボランティアの方々です。現地に到着した時間が夜遅かったため、大学のキャンパスへの送迎サービスを利用することができませんでしたが、そのご家族が連絡をくださり、空港からキャンパスまで送迎してくださいました。それだけでなく、学期を通してボートで島へ連れて行ってくださるなど、さまざまな体験をさせていただきました。そのおかげで、地元の文化や生活に深く触れることができ、大変感謝しています。

私の寮は「University Suites」という名前の施設で、約 10 人が 1 つの階を共有する形で生活していました。私は 1 人部屋を与えられましたが、なるべく共用スペースでルームメイトと接する時間を増やすよう意識しました。寮には、私を含めた留学生 3 人とアメリカ人 6 人が住んでおり、多様なバックグラウンドを持つ人々との共同生活は刺激的でした。授業開始から一週間ほど経った頃、寮に水漏れが発生し、全員がその日に一時的に別の寮「Keystone」に移る必要がありました。そこでは 3 人で部屋を共有することになりましたが、冷房が切ることができず常に効いており、また窓もない環境で快適とは言えませんでした。それでも、一緒に住むことになった留学生 2 人とはその期間中に親しくなり、結果的に

は良い思い出となりました。

学業に関しては心理学や国際学を含む 4 つのクラスを履修しました。どのクラスでも自分の意見を発表する機会が多くあり、日本の大学とはスタイルがかなり違い苦労しました。特に授業内で質問があると、内容にかかわらず初めに教授が必ず「良い質問だね」と評価している点が印象的で、このように生徒が積極的に授業に参加しやすい空気づくりがなされており、非常に新鮮に感じました。

また、ノースカロライナ大学には多くの留学生が在籍しており、その中でも多数がドイツやフランスなどヨーロッパ出身の学生でした。彼らや、現地の学生との交流を通じて、それぞれの出身地域による生活スタイルなどの違いを実感しました。特に印象的だったのは食事です。初日のオリエンテーションで「アメリカでは効率が重視され、Time is money の精神が根付いているため、ファストフードが人気である」と説明を受けました。実際に食堂で食事をした際、ヨーロッパからの留学生は会話を楽しみながら時間をかけて食事をする一方で、アメリカ人は食べ終わるとすぐに立ち去る人が多かったことが印象的でした。

ここで、私が留学した際、ノースカロライナ大学の情報が非常に少なかったため、これから留学を考える方々のために、いくつか注意しておくべき点を記したいと思います。まず、特に夏の期間は、キャンパス内の建物すべてが非常に低い温度に冷房が設定されており、温度調節が難しいと感じました。そのため、留学をする方は薄手の上着を常に持ち歩くことをおすすめします。また、ノースカロライナ大学のキャンパスは非常に広く、授業によっては教室がある建物まで歩いて 15 分から 20 分ほどかかる場合があります。そのため、キャンパスに到着したらできるだけ早く、自転車をレンタルすることをおすすめします。私自身は授業が始まってから自転車を借りようとしましたが、その時点ではすでにレンタル用の自転車が全て借りられており、時々不便に感じました。特に、多くの現地の学生は自転車やスケートボードを使用して移動しており、友達と学食に行く際など、自転車を持っていない私は友達から自転車を借りなければならないこともありました。

帰国後、「価値観は変わったか」と尋ねられることがよくありますが、今回の経験を通して、確かに考え方が広がったと感じています。この留学生活を通じて強く感じたのは、これまで私の世界の大部分を占めていた「日本」という存在が、実は世界のほんの一部でしかないということです。それと同時に、日本がさまざまな面で海外の人々から見て非常に特殊な国であると感じることも多くありました。留学前にアメリカについて多く調べたり、動画を見たりして準備をしていたつもりでしたが、実際に現地で直接感じる経験は、それらの情報から得られるものとは全く別物だと強く実感しました。そして、個人の努力や能力ももちろん重要ですが、環境が与える影響も同じくらい重要であることを学びました。異なる環境に身を置くことで、多くの気づきと成長を得ることができたと感じています。

最後に、4 か月という期間でしたが、ウィルミントンでの生活を通して、人として大きく成長できたと思います。この貴重な環境で多くの経験を得られたのは、周りの人々のおかげでありこの機にこの留学の機会をくださり常にサポートしてくださった先生、職員の方々、ともに勉強してくれた友人、TA などの先輩の方々に感謝申し上げます。また、留学生活を支える上で経済面を含め支えてくれた家族や親戚にも感謝します。この経験を通じて得た学びや成長を今後の人生に生かし、新しいことに挑戦し続けていきたいと思います。